



特集

「ろう者と議会」

「ろう者」とは、先天性または幼い頃から聴覚障害（耳が聞こえない、聞こえづらい障害）を持つ方で、手話を第一言語としている方のことを意味します。今回は市内在住のろう者の方々にお集まりいただき、普段の生活や手話言語条例等についてお話を伺いました。

《手話言語条例について》

当市では、令和2年第1回定例会において制定が可決された条例です。

「手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解及び普及並びに地域において手話を使用しやすい環境の構築に関し、基本理念を定め、市の責務並びに市民及び事業者の役割を明らかにし、もって、ろう者及びろう者以外の者が共に生きる地域社会を実現すること（市手話言語条例から抜粋）」を目的としています。

《自己紹介をお願いします。》※記事中原称略

成田 私は西北五ろうあ協会という団体で事務局長をしています。柏地区に住んでいて、手話は18歳頃から使うようになりました。高校生までは相手の身ぶりや口の動きでコミュニケーションをとっていましたが、障害者職業訓練校に入ってから手話を始めました。

工藤 私も同じく西北五ろうあ協会です事務局長をしています。木造地区に住んでいて、手話は小さい頃からずっと使っています。夫も聞こえないので、家庭でも手話でコミュニケーションをとっています。息子は聞こえるので、やりとりがうまくできない時は筆談を利用したりもします。

《普段はどんな活動をされていますか？》

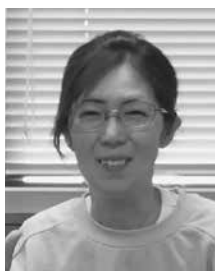
成田 西北五ろうあ協会では、役員会や手話担当者会議、サークルと通訳者の会議などを行っています。最近会員数が減少していて、役員も少なくなっているのが活動が大変です。コロナ禍ではZoomを利用しての活動もありましたが、徐々に落ち着いてきたので最近は集まる事ができています。

工藤 私も同じように活動しています。それと、たまに手話サークルに顔を出すこともあります。

成田 市内に手話サークル「カツコウ」があり、ろう者との交流を中心に手話学習などの活動をしています。その他に手話奉仕員養成講座という講座も開かれていて、私は講師として参加しています。毎年春頃に市の広報誌で受講生を募集していますよ。

★上部の写真でお二人が使っている手話は「I LOVE YOU（愛してる）」という意味です。

＼ アイラブユー ＼



くどう 工藤 ゆか子 さん

- ・西北五ろうあ協会事務局長
- ・木造地区在住
- ・手話歴：幼少期から



なりた 成田 明子 さん

- ・西北五ろうあ協会事務局長
- ・柏地区在住
- ・手話歴：18歳から

《当市では手話言語条例が制定されていますが、制定されるまでの経緯や具体的な動きはどうでしたか?》

成田 市議会定例会の一般質問で手話関係の質問をされた議員の方がいて、ちょうどその時期に全国各地で手話言語条例を制定する流れがあったことから、議員と直接お話ししたのが始まりです。条例制定は経験がないことだったので、県のろう者関係の団体に相談しながら進めていきました。複数回にわたって条文の確認や討議を重ねて、市の福祉課と協力して制定に至りました。

工藤 記念事業として、木造高校の美術部の皆さんと一緒に、手話啓発4コマ漫画冊子を作ったりもしました。

成田 条例をきっかけにして小中学校から手話講座の依頼も頂きました。その際、手話団体だけでなく市が動いてくれて講座を行えたのが嬉しかったです。



ろう者と議員で記念撮影(条例制定当時の写真)

《条例が出来てから何か変化はありましたか?》

成田 手話や障害の理解が広まっているのかなと感じています。知人が講座で勉強してくれるようになったり、広報などの記事から私のことを知ってくれる市民の方もいました。

工藤 コンビニの店員さんが手話でありがとうと伝えてくれるようになりました。その他にも、ポイントカードの有無を聞くときなど、身ぶりでコミュニケーションしてくれることが増えました。

成田 以前は口頭での確認だけだったので、手話でなくても身ぶりがあるだけで助かります。もちろん、まだまだ生活するうえで周囲の協力が必要な場面が多くあるので、小中学校の手話講座などのように、より沢山の市民に理解が広まってほしいです。市民の中でも障害に理解のある方は協力してくれませんが、無関心な層もまだ多いので、条例がもつと認知されて理解のきっかけになればいいですね。

《聞こえないことで不安に思うことはありますか?》

成田 一番気になるのは災害関係ですね。音での情報が入らない分、緊急のお知らせなどが分からないので不安です。手話通訳も24時間ではやっていないので、夜中に何かあったらという不安もあります。私は現在一人暮らしなので特にそう思いますね。幸いにして、近所の方が協力的なので、災害のほかにもお寺の行事などがあればメールでお知らせしてくれます。こういった近

所同士の助け合いが各地で広まればいいなと思っています。

工藤 私はそういう形での近所の方からの協力はないですね。聞こえないことは理解してくれていますが、何かあったときに逐一情報が入ってくるわけではないので不安があります。例えば、防災無線で行方不明者の放送があっても聞こえないので、その方を見かけていたとしても分かりません。

成田 最近市のLINEができたので、緊急の情報がスムーズになるといいなと思っています。市役所の色んな課の情報も文字で送られてくると助かります。

《今後、市や議会に対して期待していることはありますか?》

成田 市職員にも手話や障害理解の研修をしてもらえたらいいなと思います。他の自治体ではやっているところもあるので。

工藤 今は家族がいるのでまだ大丈夫ですが、やはり実際に地震などが起きた時に避難所などの情報がわからずポツと立ち尽くしてしまうかもしれません。ですので、そういった災害時の情報伝達の面がより整備されれば嬉しいですね。

成田 聞こえないことで、安心できていないことや我慢していることがあると広く理解してもらって、無関心が減っていいです。障



害にも様々な種類がありますが、障害によって差がないように、平等なまちづくりを期待しています。

障害者に優しいまちは、同時に高齢者にも優しいまちになると思います。

《手話に関心がある方は...》

◆つがる市手話サークル「カッコウ」

ろう者との交流を中心に手話学習(1分間スピーチなど)をしています。その他にもバーベキューなどの交流会もあります。

日時 毎週火曜日 19時~20時45分

場所 松の館

連絡先 カッコウ事務局 山本

kakkoushuwa01@gmail.com

◆手話奉仕員養成講座

聴覚障害者の生活や福祉制度について理解と認識を深め、日常生活に必要な手話を習得します。

今年度の受講生募集は終了していますが、毎年春頃(今年度は3月号)の広報つがるに受講生募集の記事を掲載していますので、チェックしてみてください。

